

1. 科目名（単位数）	家庭（2 単位）	3. 科目番号	EDEL3309
2. 授業担当教員	浅井 恭子		
4. 授業形態	講義、実習など	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	小学校の家庭科の授業を行ううえで必要となる家族・家庭生活、衣生活、食生活、住生活、消費生活・環境に関する基本的事項について解説するとともに実習などを行い、専門的な知識および技能を身に付けることを目的とし授業を展開する。また、新学習指導要領（平成 29 年告示）を踏まえて、小学校家庭科の基本方針と内容構成についても解説する。		
8. 学習目標	1. 小学校家庭科の授業を担当するために必要な家政学・生活科学全般の基本的知識および基礎的な生活技能を身に付ける。 2. 家庭科の学習が社会生活に大きく関わっていることを知り、社会変化に対応できる総合的姿勢と生活をよりよくしようとする実践的な態度を身に付ける。		
9. アサイメント（宿題）及びレポート課題	【中間レポート課題】 「母国で家庭科を教えるにはどのようなことを理解させたいかについて述べなさい。」を1,200字程度で考察する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 家庭編』東洋館。 必要に応じて資料を配布する。 【参考書】内野紀子・藤原孝子編著『小学校新学習指導要領の展開 家庭科編 平成 20 年版』明治図書、2008。 流田 直監修『家庭科の基本』学研教育みらい、2013。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 家政学・生活科学全般の基本的知識および基礎的な生活技能が身に付いたか。 2. 家庭科の学びの広さが具体的にわかり、自らの生活をみつめ改善を図ることができるか。 ○評定の方法 ・授業態度 30％ ・提出物（小テスト、実技作品、課題等を含む） 70％		
12. 受講生へのメッセージ	日本の小学校家庭科の学習内容を十分に理解し、それに伴う知識や技術を学ぶこと。家庭科の学習内容は実生活に基づくものであり、教科の特徴として他の教科に比べて生活という実践的な家庭生活が授業内容になる。従って、自分自身の生活の質（QOL）を高めること。普段の規則的な生活がいかに大切かを深く考えて行動し、家庭科を教える側として模範となるようにすること。また、家庭の役割や家庭生活の必要性を考え、よりよい家庭生活を送るための大切な学習であることを理解すること。家庭科は家庭の基本であり生活そのものであることを学び、国は違っても家庭生活は同じであることを理解する。また、日本での生活に活かしてほしい。		
13. オフィスアワー	毎週月曜日授業後とその他時間が許す限り対応する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション（講義概要の説明） 小学校家庭科について全体の学習内容の説明等（資料配布、プリント整理用ファイル配布）	事前学習	家庭の学習ノートを準備し講義への意欲を高めること。
		事後学習	小学校課程の内容の把握をして、家庭の全体像をつかむこと。
第 2 回	平成 29 年の改訂の経緯及び学習内容の改訂 ＊ディスカッション 小学校学習指導要領解説 pp.1～19	事前学習	家庭科の変遷を前もって学習しておくこと。
		事後学習	何がどのように変化したか、ディスカッションの内容を踏まえて 600 字程度にまとめること。
第 3 回	小学校学習指導要領および家庭科教科書 ① 家庭生活と家族 小学校学習指導要領解説 pp.20～31	事前学習	家庭生活について教科書を一読しておくこと。気になる内容は書き留めておくこと。
		事後学習	小学校で学ぶ家庭生活を理解してそれをノートにまとめた上で、本時での学習したことをノートに 600 字程度にまとめておくこと。
第 4 回	家族・家庭の扱いについて、近隣との関係 ＊ディスカッション（第 3 回の学習を踏まえて）	事前学習	家族の様々な形態を調べておくこと。
		事後学習	家族の扱い方の難しさや近隣とのかかわりを学び、注意点についてまとめること。
第 5 回	小学校学習指導要領および家庭科教科書 ② 日常の食事と調理の基礎 小学校学習指導要領解説 pp.32～48	事前学習	食事の形態や問題点を考えておくこと。
		事後学習	食事を作るには調理技術が必要となることを理解し、調理技術いわゆる切り方や煮方等について児童にうまく伝わるか、事例を挙げてノートに 600 字でまとめること。
第 6 回	栄養学①：配布資料	事前学習	自分の一日の食生活を記録し、栄養素を分類しておくこと。
		事後学習	食事は食べることはもちろんであるが、食べる以外にどんなことがあるかについて考え、ノートに書き出し考察すること。

第 7 回	栄養学②：配布資料	事前学習	各栄養素についての確認と自分が食べているものへの関心を持つこと。
		事後学習	各栄養素について 600 字程度でまとめること。
第 8 回	栄養学③：配布資料	事前学習	食品添加物への関心を深めること。
		事後学習	食品添加物や食品の保存について理解したことをまとめておくこと。1,000 字程度のレポートとして提出すること。(評価対象)
第 9 回	栄養学④：配布資料	事前学習	豚、牛、鶏の各部位の名称と特徴や、食品の切り方を確認しておくこと。
		事後学習	食品の切り方を学んだうえで、母国と違った食品の切り方を紹介すること。授業内で発表。
第 10 回	被服学①：資料配布、繊維の種類	事前学習	繊維製品について興味を持ち、身近なものの調査をしておくこと。
		事後学習	繊維の鑑別を実習し、それらの鑑別結果をノートにまとめること。
第 11 回	被服学②：資料配布 被服の役割	事前学習	自分が所有している服への関心を持つこと。
		事後学習	被服の役割について理解したことをまとめておくこと。1,000 字程度のレポートとして提出すること。
第 12 回	被服学③：資料配布、被服の管理 (洗濯など)	事前学習	洗濯について自分はどんな方法で行っているかを確認して授業に臨むこと。
		事後学習	衣服の管理について洗い方、たたみ方、どんな保存が最適かを学んでおくこと。また実生活でも管理をしておくこと。
第 13 回	小学校家庭科の実習科目の確認：教科書を使用	事前学習	実習科目はどのようなものがあるかを確認しておくこと。
		事後学習	調理や被服実習、掃除や環境について理解すること
第 14 回	小学校家庭科の実習科目の中で特に母国で教えたい内容を発表	事前学習	母国で教えたい内容を 1,000 字程度でまとめたものを持参すること。
		事後学習	みんなの発表を聞いてどんなことを感じたかを 1,000 字程度でまとめて提出すること。(評価対象)
第 15 回	日常生活で家庭科はどのような存在なのかについてディスカッションを通して考える	事前学習	家庭科の役割は日常生活においてどのような位置にあるかについて考えておくこと。
		事後学習	各自の発表を聞いて感想を 1,000 字程度でまとめて提出すること。(評価対象)